

令和4年度第2回浦安市行政改革推進委員会 会議録

○日 時／令和4年12月26日(月) 15:00 ～ 16:20

○場 所／市役所4階 S5会議室

※一部委員は、リモートで出席

○出席者／寺村委員、深谷委員(リモート)、李委員(リモート)、齊藤委員、根津委員、岩田委員、染谷委員

○事務局／山崎総務部長、内田総務部次長、土久総務課長、久木行政改革推進室長、高津副主査、腰塚主任主事

○議 題／(1)令和4年度事務事業評価について(中間報告)
(2)その他

1 開会

2 会長及び副会長の選任

会長に寺村委員、副会長に深谷委員が選出された。

3 議題

(1) 令和4年度事務事業評価について

令和4年度に取り組んでいる事務事業評価の実施概要について、事務局より説明を行った。

委 員： コストを削るだけでなく、予算は有効なところに使ってほしい。また、コロナの影響が続いているが、税収の状況はどうか。

事務局： 事務事業評価は事業の廃止や予算の削減を目的としているものではなく、事業の効率的な実施方法について見直しを行っている。また、コロナ禍において、事業の実施方法等を工夫しているが、歳入は横ばいで厳しい状況が続いている。

委 員： 事業にかかる人件費は、毎年固定ではなく変動するものだと思うが、どのよう考えているのか。

事務局： ご指摘のとおり人件費は毎年変動するものだが、今回の評価は令和3年度の実績で行った。

委員： 評価結果は、機械的に処理するだけでなく、改善の材料として活用するという理解でよいか。また、客観的評価はだれが行うのか。

事務局： どのように実施すれば施策や事業の効果がより高まるのかといった視点で評価しており、結果については、事業の効果が高まるよう見直しの材料として活用していく。

評価自体は、担当課、事務局、庁内の行政改革推進検討委員会を経て行っており、評価軸を用いて客観的に評価した。コストについては、改善しているかどうかで評価している。

委員： コストの評価について、前年度比較だと社会需要によって変化すると思うが、前年度比で評価できるのか。

事務局： 単位コストでの比較を採用しており、例えば、コストが上がってもニーズの増加に伴い利用者が増えれば単位コストは改善するという考え方である。加えて、調書からでは読み取れない実態を把握するため担当課にヒアリングを行っている。

(2) その他について

今後のスケジュールについて事務局より説明を行った。

委員： 聞き取り調査が重要で、しっかりと意見を聞いて評価する必要があると思う。

委員： 評価によって廃止と分類されるものがある。廃止と評価されたものでも復活できる仕組みがあるとよいと思う。また、今回の調査にかかったコストに対する評価も必要である。

事務局： 廃止ありきではなく、事業そのものの在り方を見直すことが重要だと考える。やめるための評価でなく、やり方を変えていくための評価だと考えている。また、この考え方を庁内に浸透させていきたい。

評価自体のコストについては、作成する調書に自動算出や自動表示する項目を設けるなどの工夫を行い、担当課や事務局の負担軽減を図ったところである。

委員： 有効に事業を実施し、サービスを提供していく必要があるが、新規事業を生み出すことについてはどのように考えているのか。

事務局： 事務事業評価については、職員の意識改革も重要だと考えている。ただ同じことを行うのではなく、事業の在り方を見直し、より良い手法に変えていくことが重要である。また、事業を見直すことで、行政需要を捉えるとともに、コスト改善等で削減できた経費を新たな事業に展開していきたいと考えている。

委員： 職員の意識改革が重要であれば、廃止と評価された事業について復活できる制度を設けることも必要である。また、評価期間は3年ではなく、短くした方がよいと思う。

事務局： 評価は3年に一度とし、評価に基づく改善の取り組みをフォローアップしていく。また、廃止については、図のとおりコスト改善や貢献度の改善などより良い方向に向かっていくことも想定している。

委員： 以前の評価は、廃止要素が強かったと感じている。削減だけではないことを職員にもっと周知するべきである。3年だけではなく、意識改革はずっと続けた方がよいと思う。
以前の点検調書は見づらかったので、評価結果についてはポイントを絞るなど改善をしてほしい。

(その他事務連絡)

次回会議については、2月上旬を予定している。

3 閉会

(16時20分終了)